

令和5年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	4	議席 番号	4	氏名			
				辻 村 岳 瑠 議 員		1 / 2	
発言項目		要 旨				答弁者	
1	介護人財確保のための人的基盤の整備について		<p>東京商工リサーチによると、2022年の老人福祉・介護事業者の倒産件数は、介護保険制度が始まった2000年以降で年間最多と報告している。その要因の一つは、人手不足の顕在化による経営の悪化である。富士宮市第8期介護保険事業計画には、介護保険制度見直しに係る国の基本指針の主要事項の一つである「2025年・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備」について記載しているが、人的基盤なくして、サービス基盤を整備することはできない。令和6年度からの第9期介護保険事業計画を含め、市の介護人材確保の考え方について以下同う。</p> <p>(1) 市内の老人福祉及び介護事業者の倒産件数について同う。</p> <p>(2) 第8期富士宮市介護保険事業計画における「人的基盤の整備」の取組に対する予算措置としては、介護職員初任者研修費補助金しかないという理解でよろしいか。次期の第9期富士宮市介護保険事業計画には、より具体的な人的基盤整備の取組を計画していく必要があると考えるがいかがか。また、人的基盤の整備として、介護福祉士の実務者研修費用の補助金を提案するがいかがか。</p> <p>(3) 人的基盤整備の財源としては、静岡県介護サービス提供体制事業整備促進事業費補助金交付要綱において、介護職員が働きやすい職場環境を整備するための介護職員の宿舍施設整備事業が補助の対象となっている。市内の老人福祉及び介護事業者の介護サービス提供体制事業整備促進事業費補助金の活用状況はいかがか。</p> <p>(4) 人口減少及び少子高齢社会において、介護人材を優先的に呼び込むことで、人を呼び込むことにつながるため重要だと考えているが、市の考えはいかがか。</p>				市 長 関係部長
2	子どもたちの食を変える「オーガニックビレッジ宣言」保育所の給食について		<p>国は、持続可能な食料システムの構築に向け、みどりの食料システム戦略を策定した。その目指す姿の一つに、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ヘクタール）に拡大というものがある。この実現に向けた取組に対して、みどりの食料システム戦略推進交付金が交付される。この交付金の対象となる事業のうち、有機農業産地づくり推進については、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んで推進する取組の計画策定や、試行、体制づくりに対して支援される。その消費先としては、学校給食での利用、マルシェなど域内流通での地産地消などがあるが、有機農業により生産された食材を市内の保育所において消費するという計画を策定し取り組み、オーガニックビレッジ宣言をすることが、市内の有機農業の活性化と子どもたちの食について良い影響を与えることにつながると考え、提案する。以下、市の考えを同う。</p> <p>(1) 人間の身体は食べた物でできているという考えから、園児が食べる給食に有機の食材を使用することに対して価値を感じる。その一方、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第11条第4項において「調理は、あらかじめ作成された献立に従って行わなければならない。」と規定されている。このことは有機野菜や有機米を給食に使用することの難しさの一つであると感じるが市の考えを同う。</p>				市 長 関係部長

発言 順序	4	議席 番号	4	氏名	辻村 岳 瑠 議員	2 / 2
----------	---	----------	---	----	-----------	-------

発言項目	要 旨	答弁者
	<p>(2) 有機農産物には、有機食品の検査認証制度（JAS）に基づくものと、有機農業推進法に基づくものがある。有機農業産地づくり推進において策定が求められる有機農業実施計画における有機農産物は、どちらの基準に基づいて計画する必要があるのか伺う。</p> <p>(3) 有機農業実施計画の難しさに、有機野菜や有機米の安定供給と価格がある。安定供給の課題については、保育所がある地域で生産された食材を使用することで解決できると考える。価格の課題については、有機農業推進計画の策定から受けられる、みどりの食料システム戦略推進交付金を利用することで解決できると考えるがいかがか。</p> <p>(4) 味覚形成される時期の子ども達の食をより安心安全なものへと変えるオーガニックビレッジ宣言について、食育の観点も含めて市の考えを伺う。</p>	
3 商店街活性化のための富士宮駅前交流センター駐車場の活用とイベント後の集客状況を伺う	<p>富士山本宮浅間大社の門前町として、商店街の活性化は重要な施策である。第5次総合計画では、商店街に出店する事業者への支援、商店街全体の活性化を図るイベントなどが計画されている。以下伺う。</p> <p>(1) 商店街活性化施策に対しての現状を伺う。</p> <p>① 空き店舗の総数と、使用できる店舗数は。</p> <p>② 新規出店数と閉店数の比較。（過去5年間）</p> <p>③ イベントによる賑わいからの集客状況は。</p> <p>(2) 富士宮駅前交流センター駐車場の料金及び使用に関して伺う。</p> <p>① 料金の設定基準について。</p> <p>② 神田川駐車場と使用料金が異なる理由について。</p> <p>③ 駅前交流センターのオープン当初から、富士宮駅前交流センター駐車場が満車の状態で交流センターの使用に支障を来したことはあったのか。</p> <p>(3) 富士宮駅前交流センター駐車場について、商店街活性化のために、料金の減額や割引チケットの活用は考えられないか。商店街には駐車場がある店舗もあるが、台数が少なく駐車スペースが狭いという意見を聞く。市の考えを伺う。</p> <p>(4) 宮町まつりをはじめ商店街を活用した賑わいづくりは大変に素晴らしい。これを生かさない手はないと考える。イベントで店舗に興味関心を持った方に対し、新規顧客、リピート客の獲得につなげるための取組について市の考えを伺う。</p>	市長 関係部長